



「大学入学前教育」とは、AO入試や推薦入試で早めに合格が決まった大学入学予定者が大学への学びへスムーズに移行できるように、学習教材を提供する教育のことです。東洋大学では昨年度から大学入学前教育に日本語検定を活用していただきました。「ステップアップ日本語講座中級編(4P参照)」を元に入学前教育教材を作成し、学習が終わった3月のタイミングに日本語検定の団体特別受検を開催いただきました。入学前教育を担当されている学長事務課の阿部様に導入の利点等について、また、優秀な成績を収めた学生さんからも、受検して気づいたこと等を執筆して戴きました。

学校法人 東洋大学
学長室学長事務課
阿部 佑氏

本学では主に推薦入学で合格した入学予定者を対象に、入学前教育を実施しています。入学前教育では高校の科目と対応した「国語・英語・社会・数学・理科・情報倫理」といった科目を用意し、毎週少しずつ勉強できるように工夫をしています。

日本語検定は「国語」に対応する教材として採用し、昨年は主に文系学部に入学者が2ヵ月半にわたり受講しました。また、日本語検定委員会様にご協力戴き、3月18日に任意受検の日本語検定を開催し、140名の入学予定者が受検しました。学習の目標ができたという声のほか、これまで気がつかなかった敬語の使い方などが身についた、今後も受検をしたいという意見が多くあり、有意義な取組であったと考えています。

入学前教育の目的は学習習慣の定着及び、センター試験などを受験した入学生と学力が離れないようにするリメディアル教育の実施にあります。日本語検定には更に大学でレポートを書く時や、就職活動の書類を作成する時に役に立つ日本語力向上の効果を期待しています。このようなスキルは意識をしないと大学に入ってから学ぶ機会はあまりありませんので、是非入学前教育で身につけてもらいたいと考えています。



～ 成績優秀者の皆さんからのご投稿 ～



就職だけでなく日常のなかでも役立つ日本語検定

国際観光学部 1年 松浦奈央さん

私が日本語検定を受検しようと思ったきっかけは二つあります。一つ目は大学の入学前課題の一つとして推奨されており、正しい日本語を学び直したいと思ったからです。二つ目は、サービス業への就職を希望している私にとって、正しい日本語が使用できることを示めせるこの資格が役に立つと思ったからです。日本語検定では敬語や語彙、熟語などを勉強します。アルバイトの経験があったので自分の敬語は正しいと思っていましたが、そうではない部分もありました。敬語に限らず正しい日本語を使えていると思っていても、実際には間違った日本語を使っている日本人は少なくないでしょう。私もその一人でした。

日本語検定受検後は、以前までは何気なく使っていた「ら抜き言葉」を気にするようになったり、語彙力も増えて会話に深みが出たりと日本語に対する意識が

変わりました。丁寧で正しい言葉を改めて勉強することで大学での課題やプレゼンテーションで相手に良い印象をもたらすことができると思います。日本語検定を通して多くの語彙を学びました。私にとって難しい漢字を含む語彙の勉強は難しいと感じる部分もありましたが、語彙を理解することで、自分の感情をより明確に表現することができ、コミュニケーションの質が上がったと思います。また、入学後に始めた留学生に日本語を教える活動でも、正しい日本語やその意味を教える上で今回の勉強が生きていていると感じています。就職のためだけでなく日常の中でもとても役に立つ資格だと思います。



アルバイトや就職活動、生活していく上で日本語検定は役立つ

社会学部 1年 尾形千尋さん

日本語検定試験のお知らせが来たときに、私は初めて日本語検定という検定があることを知りました。大学が決まってからの春休みということもあり、高校の勉強から離れていた私には勉強するいい機会でした。そして、日々、私が使っている日本語は正しいかを確認したい、どのくらいの力を持っているか知っておきたいという思いがあり、高校卒業程度の3級を受検しました。

高校卒業程度とあるとおり、実際に受検してみてもそこまで難しいとは感じませんでした。しかし、言葉の意味の分野では今まで使っていた言葉の意味を間違えて覚えていた部分が少し多かったようです。そして、漢字を書く問題があったのですが、最近はスマホやパソコンばかり触っていて文字を書く機会が少なくなっているためか、漢字がなかなか思い出せないというこ

とがありました。尊敬語、謙譲語がある敬語の分野が一番簡単だったと思います。高校でやったことがそのまま生かせる問題でした。

現代の日本語は崩れてきているように思います。私も含め、間違った日本語を使っている人は少なくないはずです。普段の会話の中で、今使った日本語は正しいのか？と考えることが多々あります。改めて日本語の難しさを実感しました。

アルバイトや就職活動、生活していく上で今回の日本語検定は役立つと思います。これから生活する中で恥ずかしくない日本語を使うためにも、日本語の勉強は常に続けていくべきであり、正しく使うという意識を持ち続けるべきだと思いました。



会話に自信が持てるようになり、レポートを書く時にも役立ちました 文学部1年 郷萌花さん

私が日本語検定を受けようと思った理由は、進学する前に推薦課題や自分自身の勉強で語彙力、読解力がどのくらい身についたのか確認し、今後の学習に生かしたいと思ったからです。また、文学部に進学するにあたり、文学作品を読む上ではまず正しい日本語の知識が必要になると思いました。

私が受けた三級の試験は高校卒業レベルだったので、難易度はそれほど高くなかったように思います。基礎的な問題が多かったため、勉強も楽しみながらすることができました。

問題は敬語や文法、語彙、表記などいくつかありましたが、特に敬語は自分では正しく使えていると思っていたけど、勉強してみて間違っていたことに気づくということが多かったです。

検定を受けて自分の実力を数値として客観的に理解できたのはよかったです。どこが苦手どころが

得意か、自分が同年代の中でどのくらいのレベルにいるのかということがわかったことはやる気や自信にも繋がりましたし、今後の勉強にも活かしやすかったです。

また、受検を通して日頃から日本語の使い方に気をつけるようになりました。日常的に意識していたことで、確実に力になったという実感があります。正しい敬語の使い方を学んだことでアルバイトの接客や先輩、教授との会話では自信が持てるようになり、積極的にお話ができるようになりました。語彙を正しく理解する力がついたことはゼミなどでレポートを書くときにも活かしています。

今後の就職活動や社会人になってからも活かせるスキルだと思うので、これからレベルを上げられるよう勉強したいと思います。



日本語検定を受検して日本語は一生使えるスキルだと気づきました 文学部1年 安井実来さん

私が日本語検定試験を受けた理由は、大学から出されていた日本語検定に関わる事前課題の成果を試したかったからです。ちょうど家庭研修期間だったこともあり、大学入学前の目標に何か資格を取りたいと考えていました。そこで、事前課題をこなすモチベーション維持のためにも日本語検定を受けてみようと思いました。

それまで私は、日本語検定の存在を知りませんでした。一番身近な言語である分、外国語のようにわざわざ日本語を一から勉強するということは考えていませんでした。実際に受けてみて感じたことは、正しい日本語の難しさです。とくに、敬語の正しい使い方は見直さなければいけないと思いました。普段の生活でも敬語を使う場面は多くありますが、この検定を受けて改めて尊敬語、謙譲語、丁寧語の正しい使い分けを学

ぶことができました。検定問題の中には、実際の生活でありそうな場面の会話を取り上げているものもあり、より自分の日本語力を体感できるのではないかと思います。

日本人だからといって、完璧な日本語を話せているわけではないということを痛感しました。漢字の表記や言葉の意味、文法を知ったかぶりしてはいけません。英単語で分からないものは辞書で引く、というように、日本語も日々学ばなければいけないことはたくさんあるのだなという意識に変わりました。

この検定を受けて、日本語は一生使えるスキルだと気づかされました。日本語に対する意識を高めていくことで、人としての基礎も高まっていくのではないかと思います。



日本語検定を受けたことで様々な場面で役立っています 文学部1年 五島優華さん

私は大学から検定試験の案内が来るまで、日本語検定の存在を知りませんでした。受検は任意でしたが、親から「入学するまで、どうせ時間があるのだから受けたら？」という助言もあり、受検しました。私は日本人ですが、日本語が苦手で、よく友達から「なんか少し日本語がおかしいよ」と言われていたので、丁度良い機会ではないかなと思いました。

大学から事前学習用として日本語検定の練習問題が提供されていたので、その練習問題で満点が取れるまで何回も勉強しました。一番難しかったのは敬語です。普段使うことが少ないので、覚えるのが大変でした。しかし、本番の試験では敬語の部分は満点だったので、頑張って勉強した甲斐があったと思いました。受検の難易度としては、やはり3級だったので、それほど難しくありませんでしたが、勉強していなければ、出来なかっただろうと思います。

日本語検定を受けてから、日本語を正しく使いたいと思うようになりました。

改めて日本語って難しいなと実感することがたくさんあります。日本語のことわざで「情けは人の為ならず」というのがあり、私は勉強するまで間違った意味で覚えていました。本来は「人に親切にすれば、その相手のためになるだけでなく、やがてはよい報いとなって自分にもどってくる」という意味です。しかし学校の先生も、このことわざを「親切にするのはその人のためにならない」と間違った意味で使っていた時がありました。教える人も間違えるぐらいだから、やっぱり日本語は難しいです。

しかし私は日本人だから正しい日本語を使いたいです。この日本語検定を受けたことで、色々な場面で役立つことがあります。実際、バイトの店長にメールなどを送る際に今まで気にしなかったのですが、二重敬語になっていないかとか、謙譲語は正しいのかとか気をつけるようになりました。もっと日本語検定が身近になれば、間違った日本語を使う人も少なくなると思っています。

日本語を学校で学ぶテキストのご案内

**ステップアップ
日本語講座**
中級 3・4級対応

B5判 96ページ 本体600円(税別)
*別刷解答付(個人からのご注文は受けられません)

正しい日本語の
使い方を、テーマごとに
分かりやすく整理